

2023.8.3 (木)
第5回例会
(通算3720回)

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI会長 ゴードン R. マッキナリー
第2500地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (叙別港 RC)

| | |
|----------|-------------------------------|
| 月間テーマ | 会員増強・新クラブ結成推進月間 |
| 本日のプログラム | 講師例会「釧路初の病児保育の取り組み」(プログラム委員会) |
| 次週例会 | 全道中学親善硬式野球大会報告会(青少年奉仕委員会) |

- ロータリーソング：君が代・四つのテスト ■ ソングリーダー：五十嵐 正弘君
- 会員数 99 名
- ビジター なし
- ゲスト 釧路労災病院内科医学博士、病児保育施設「スクラム」代表 佐野 逸紀先生

会長の時間

後藤 公貴会長

皆さん、こんにちは。本日、本当にお忙しい中、時間作っていただきまして、わがクラブでの講話を快くお引き受けいただきました佐野先生に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。



さて、先週末、7月29日・30日とかねてより皆さまにご案内をさせていただいておりました第7分区主催の『全道中学親善硬式野球大会』が湖陵高校と工業高校のグラウンドで開催されました。2日間に亘り天候にも恵まれて開会式・閉会式には、わがクラブの多くの皆さんにもご参加をいただきました。第7分区内の他クラブ会長・幹事の皆さんもほとんどいらっやして、最近、見たことがないような多くのメンバーで開催できたと思っております。心より感謝を申し上げます。

事前準備、そして運営に携わっていただきました磐田大委員長と青少年奉仕委員会の皆さま、佐藤幹事、そして当日は佐藤幹事の奥様がメイクアップカードを配るという、よく分からない光景を目にした訳です。幹事、奥様にもお礼を申し上げておいてください。

さて、本日はプログラム委員会の今年度第1回目の

担当となる例会です。本年度、得地大委員長と八幡プログラム委員長には私から、この地域で生活をしていてもこの地域のことを知らないことはよくあることでして、そこにスポットを当てて、地域の諸問題・課題、また釧路地域の魅力とか、ご活躍をされている方などのご紹介、またその人たちのお話を聞いて、より深くこの地域を知ろうということをテーマに1年間活動をしてくださいとお願いしました。

本日のテーマ、「病児保育」に関しても実は私、初めて聞いたことでして、自分の不勉強さを思い知ったところではあります。

釧路地方の医療問題に関しても先般、報道がありました精神科また精神科医問題や釧路地域・根室地域においては「安心して子どもを産めない、安心して子どもを育てられない」という現状が横たわっていると思っております。

医療の問題だけではなく、私たちがこの地域の魅力や問題や課題をこのロータリーの活動を通じて知ることによって、会員個人ができること、また会員が勤める企業でもできること、そして、90年また100年を迎えようとしているわが釧路ロータリークラブが地域の問題について何かを取り組む一歩になる1年間にしたいと思っています。

今年1年間、ぜひ皆さまとこの例会や様々な事業の時間を通じて見識・見聞を深くしてまいりたいと思います。

本日は佐野先生のお話を聞いて、この病児保育、そして病児保育の施設というものを深く理解する有意義な時間を一緒に過ごしたいと思います。

本日、皆さまと有意義な時間を過ごせますことを祈念申しあげまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日一日、どうぞよろしく願い申し上げます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事



こんにちは。幹事報告になります。8月のロータリーレートですが、141円となっております。先月より4円下がっております。

続きまして、『シンガポール国際大会』のご案内が来ております。日時は、2024年5月26日～29日です。登録は、MYROTARYの「国際大会登録」からオンラインで行うことになります。詳しくはボードに貼りましたのでご覧いただきますようお願いいたします。

続きまして、『ライラセミナー』のご案内が来ております。開催日は10月14日・15日、場所は北見モイワスポーツワールドになっております。こちらも掲示板に貼っておりますので、企業様でどなたか若い方にぜひお声掛けいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、「清水幸彦会員を偲んで」という追悼誌ができあがっております。こちらは皆さまのパーソナルボックスに入れてありますので、ご一読をよろしく願いいたします。各クラブの例会案内は、テーブルの例会案内をご覧くださいませようお願いいたします。

新入会員紹介 スポンサー 吉田 秀俊君

それでは、本日出会されました吉岡和美さんをご紹介させていただきます。スポンサーは、尾越君と私ですけれど、吉岡さんと私は以前から面識がございますので私から紹介させていただきます。



吉岡さんは、竹村支社長の後任として、北海道新聞釧路支社支社長として過日、着任されております。お生まれは、厚真町で生年月日は昭和40年7月26日ですので58歳になったばかりです。ご自宅は札幌ですけれどお子様がいらっしゃるいませんので、奥様と2人で釧路での生活を楽しまれると聞いております。

吉岡さんは、24歳～26歳まで約2年半釧路で販売部員として勤務された経験がありますので、今回は32年ぶりの釧路勤務となります。前回勤務された頃、私もまだ若かったものですからよく一緒にお酒を飲みました。現在も新聞社の販売局と販売店という立場でお付き合いをしております。

非常に明るく元気な、それから前向きな性格で人付き合いがよろしいということが私の人物評でございます。最近、やられていないと思いますけれど麻雀もされますし、ゴルフもされます。ゴルフのハンディキャップは私と同じ20ですけれど、先日一緒にラウンドをしましたが、私より若干うまいかなという程度ですので、だいたい想像が付くと思っております。最近、トレンドのサウナにも興味を持ち出したということです。皆さまはサウナに詳しいので、ぜひ良いスポットがあったら紹介いただきたいと思っております。お酒はあまり強い方ではないかと思っておりますけれど、十分皆さんにお付き合いできるかと思っておりますので、声をかけていただき親交を深めていただければと思っております。

最後になりましたけれど、吉岡さんが釧路ロータリークラブに1日も早く馴染んでいただき、一緒に奉仕活動ができるよう皆様のご協力をお願いいたします。私からの紹介とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

新入会員挨拶

株式会社北海道新聞社 釧路支社

支社長 吉岡 和美君

ほとんどの皆さまとは初めてで、この高い席からご挨拶をさせていただくことをお許しいただきたいと思っております。



ただいま吉田秀俊さんからご紹介をいただきました北海道新聞社の吉岡と申します。このたびは、歴史と伝統を誇る釧路ロータリークラブに参加をさせていただくことをお認めいただきまして、ありがとうございます。

まだまだロータリークラブ自体の活動も不勉強で、これから皆さまとともに活動をさせていただきたいと思っております。「とにかく学ぶより、慣れる」と先ほどもご教授いただきました。可能な限り皆さまとともにこの活動に参加して早くロータリークラブの精神を学んで身に付けて努力していきたいと思っております。

何卒よろしく願いいたします。

歓迎の言葉 後藤 公貴会長

吉岡君、ロータリアンになりますとオフィシャルの場面では、君付けになるということで覚えておいていただければと思います。

まずは、ご入会をお決めくださりまして心より感謝申し上げます。クラブを代表いたしまして歓迎をさせていただきます。

先ほど、吉田君からもありましたけれども、ロータリーはたくさんの奉仕活動を行っておりますが、まずは週に一度この例会が開催されます。その他、様々な奉仕活動や事業や親睦活動のようなものがありますので、ぜひ多くの機会に触れ合ってください1日も早くクラブに慣れていただくことを心よりご祈念をさせていただきます。

そして、所属委員会ですが親睦活動委員会に。本日、濱口委員長は欠席をしておりますが、青いタスキをした方たちが親睦活動委員会のメンバーとなります。ぜひ1日も早く慣れていただければと思います。

■本日のプログラム■

講師例会「釧路初の病児保育の取り組み」

プログラム委員会 八幡 好洋委員長

皆さま、こんにちは。プログラム委員長を担当させていただきます八幡です。よろしくお願いいたします。本日は、プログラム委員会としての最初の例会となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



本日は、講師例会ということで『釧路初の病児保育の取り組み』というテーマで、釧路労災病院の医師をさせていただきます佐野逸紀先生にお越しいただいております。

佐野先生は現在、病院の先生のかたわら病児保育施設「スクラム」を昨年の6月にオープンされております。この病児保育を行うことは釧路では初の取り組みとなります。女性の社会進出が進んでいく中で、小さいお子様をお持ちのお母様たちが仕事を続けていくことはなかなか難しいですけれども、そのような課題を解決すべく熱い思いを持って取り組まれていらっしゃると思います。

本日はぜひその活動を皆さんに紹介していただき、釧路地域のこのような素晴らしい取り組みを応援して行けたらと考えておりますので、ぜひ耳を傾けていただきたいと思います。

釧路労災病院内科医学博士、病児保育施設「スクラム」

代表 佐野 逸紀先生

よろしくお話しします。過分なご紹介をいただきましてありがとうございます。大変緊張していますので、どうぞお手柔らかに。そんなに深刻でなくお聞きいただければと思います。



病児保育施設「スクラム」を昨年の6月にオープンいたしました。場所は新栄町の共栄稲荷神社の近くです。そこに一軒家の借家を借りてスタートをした次第です。

簡単に自分の自己紹介をさせていただきます。自分は1980年生まれ、出身は千葉県船橋市で高校まで千葉にいました。大学は弘前大学の医学部に入りまして、びっちりラグビーしかやっていなかったのですが、なんとか医者になりました。医者になってからは、市立函館病院、網走厚生病院、市立稚内病院と道内を転々として、手稲溪仁会病院という胆石や膵臓の治療をメッカとしているような病院で2年間研修をして、北海道大学で医学博士となって、2017年から釧路労災病院で勤務させていただいています。

釧路労災病院は、だいたい根釧地域全体29万人を医療圏とするような典型的な地方の中核病院です。釧路市だけではなく、隣の鶴居村・白糠・弟子屈の患者さんが毎日のように来てくれていて、遠くは羅臼町や根室からも患者さんが押し寄せて、毎日凄い人数の患者さんが来ていただいている病院になります。

自分の専門は、胆・膵領域といまして、上の画像は胃カメラを使って胆石を取っているところです。黒い石がポロポロと出てくるところです。その下は膵臓がんは最近増えていますけれども、膵臓がんを腸から針を刺して細胞を採って診断をするような検査を特化して行っています。

自分が赴任する2017年の前は、だいたい年間300件でしたけれども、2021年には600件を超えていて、道内でも有数の件数を誇る病院になってきています。今回とは全然話が違うので、もし機会をいただけたらこの辺も詳しくお話できると思います。

本日の内容です。『病児保育』、聞き慣れない方も多いのではないかと思いますけれども、そのお話をさせていただきます。

子どもが風邪や胃腸炎などの病気になったとき、いまのご時世では保育園や学校は、だいたい熱が37.5度以上になると大抵預かってくれません。コロナの影響で集団感染に過敏になっていることもあって、熱を出した子どもは家で見るしかないという家庭も多い

と思います。病児保育はそのように病気に罹ったお子さんを専門に預かる事業になります。こちらは、児童福祉法の第6条にも明記されていて、事業として国も推進している状況です。

病児保育の意義と書きましたが、何がいかと言いますと左側、当然、病気のお子さんを看るのは辛いので、そのような親の負担を軽減できるメリットがあります。さらにそのような所に病気のお子さんを預けることによって保護者が就労を継続できるという継続性の確保につながっていきます。もっともっと進んだ欧米諸国だと、それこそ新米ママさんなどは病気の状態の子どもをどうしたら良いか分からないという家庭も多いです。そのようなお子さんに対しても専門性の高い保育を行って、看護師もいますので適切な症状緩



和を行えるという子ども目線で、子どものことを考えて病児保育が良いのではないかと推奨されています。

また、さらに幼少

期に病気に罹らない子どもは一人もいませんので、病気に罹るといふ普段とは違う経験を子どもは必ずしなければいけない。そのような発達のプロセスの支援ということでも専門家集団が子どもの幸福と健康を守るためにあらゆる世話をしましようということが病児保育の意義として謳われています。

ただ、難しいことを言っても、要は病気の子どもを抱えていると親は働けませんので、日本においては就労の継続性の確保という意味合いが強いのと思っています。

病児保育事業もだいぶ確立されてきていて、専用の施設で預かるタイプ、保育園に併設されているタイプ、あとは職員が訪問をして家庭で看るタイプ、といういろいろな形態があります。

今回、自分は専門の専用施設で一時的に保育をする事業として立ち上げました。立ち上げといっても、病気のお子さんを安静に休ませる安静室と哺乳瓶などを温める簡単なキッチンがあれば設備の基準はクリアしてしまいます。人員は保育士と看護師がそれぞれ1名ずついれば問題ないのです。保育士1名に対して児童3名まで預かれるという制限はありますが、開設自体は認定こども園ほど厳しいものではありませんでした。自分がラグビーをやっていたので、施設の名前は「スクラム」という名前にしました。

なぜ小児科医でもない自分が開設に至ったかと言いますと、ここに写っているこの子どもが自分の長男、いま3歳になりますが、実はこの子が原因で、本当に寝付きが悪く、1時間から2時間かけて寝かせつけても30分寝たらまた夜泣きをして起きてしまうことが、

連日連夜、夜通し続きます。当然、千葉県出身なので家族のサポートも得られませんし、妻がだんだん育児疲労でダウンしていきます。そうすると、自分もずっと仕事人間で、月に100時間以上の残業をするぐらいの人間でしたけれども、どうすることもできない状況になり自分も子育てに参加することになります。午後9時から10時に仕事から帰って、夜の寝かせつけを一晩中しながら寝て、また朝になったら病院に出勤するという、かなり過酷といえますか、あの頃は本当に大変でした。

この状況も、日中託児所に預けることで随分改善しました。これは駅前にある「ハイホーム」のホームページから取ってききましたけれども、いまでも自分の子が表紙を飾っています。このような状況で日中を過ごしますが、これも「あるある」で、託児所でこれだけみんながいて、いろいろな子の風邪や胃腸炎をもらってすぐ熱を出します。そうすると通園ができなくなり家で看ることになると、状況は逆戻り。この時に自分は、釧路市に病気の子どもに対するいろいろなサービスがないかをかなり検索しました。けれども、正直なところ病児に対する行政サポートや施設はないとわかり、それならば自分で病児の一時預かりが可能な施設を開設してみようと思うようになり、この事業を立ち上げた次第です。

当施設の簡単な概要です。預かれる病気のお子さんは10名。対象は生後3カ月から小学校6年生までとしています。利用料金は1日MAXで預かったとして4,000円。釧路市から補助金が出ている影響で「釧路市以外の所は差額を付けて」と言われて5,000円になっています。これも少し値引きをしようかと思っています。人員は看護師1名と保育士3名が常駐しています。

先ほど言ったような2階建ての住宅を借家として借りています。1階フロアはこのように広々として、感染症ではない、いわゆる風邪のお子さんなどを預かるスペースとして医療用品も完備しています。2階フロアは個室が4室ありますので、すぐ周りにうつすウイルス性の胃腸炎やいま流行っているヘルパンギーナなど、感染力が強い疾患のお子さんを個室で預かれるように配慮しています。職員には、小児の緊急の時に対処できる救急法やAEDの講習会を行い、知識を深めています。

利用の流れとしては、ウチの施設は単独型なので、どこかの病院かクリニックを受診してこの診断書を受診先の医師に記載してもらう必要があります。必要書類をダウンロードして、電話で予約をしてという流れで当施設はいつでも利用可能です。

ここに、道内のいまの病児保育施設がある都市を列挙しました。この道東地域には今まで何もありませんでしたが、今回、ここに病児保育施設「スクラム」を

開設させていただきました。しかし、北海道には100以上の市町村がありますが、たったこれしか病児保育施設がないのです。すぐ開設できるとはいえ、なかなか普及に至っていないのが現状で、その普及しない理由も、始めてみて自分でもわかることがあります。

まず、圧倒的に採算が取れないのです。感染の状況やキャンセルの問題などがあって利用者数が安定しないことも採算が取れないことにつながっています。もっと田舎の地域だと今度は看護師・保育士の確保が難しいという問題もあって、なかなか進まないような状況です。

これは、総務庁の令和元年のまとめになる病児保育事業のアンケート調査です。760施設の回答としては、「利用の児童が日々変動する」「採算が全く難しいです」ということが言われています。

なぜ採算が取れないかという理由は簡単です。例えば看護師1名・保育士1名を雇用したとすると、保育士1名で児童を3名まで預かれるとなっておりますので、この2人でお子さん3人を見ることは多分大丈夫だと思います。ところがこの病児3人が、このようなお子さんたちだと、真ん中の子はいまゲーゲー吐いています。きっとウイルス性の胃腸炎を周りにうつす可能性があるのです。ここで隔離をしなければいけないという制限が入ってしまいます。さらに、右の子はかなり具合が悪そうで、保育士・看護師どちらかがマンツーマンで看なければいけない。このように、その病気の性質によってより多くの人員が必要となり、このケースでは看護師・保育士1人ずつでこの3人を見ることは不可能となります。というように、どんどん人員を増やして行かないと多くの子どもを看られないといった問題点があることを自分がやってみて初めてわかりました。

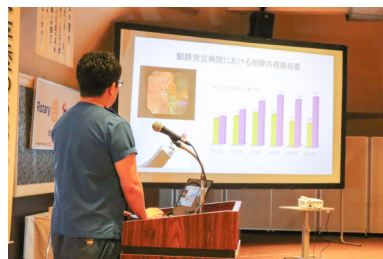
さらに、当日キャンセルも大きな問題で、子どもの急な発熱でお母さんは、とりあえず預けようと思って連絡をします。予約を取った後に「仕事の休みが取れました」「祖父母が見てくれることになりました」というキャンセルが起きます。どうしようもない事情としては「病状が悪化して入院をしてしまいました」「預かりが難しい病気だと判明してしまった」というものもありますが、せっかく確保した人員がこのキャンセルによって無駄になってしまい、都会では特にこのキャンセルが問題で人件費が非常にかさんでしまって営業が難しい、経営的に厳しいということになってしまいます。

そのような状況もあって、「子ども・子育て支援交付金」という補助金が国と道と市から折半で出ています。年間約700万円ぐらいで、あとは預かり人数に応じて表のようにラダーのようにお金が入ってくる仕組みになっています。それでもウチの施設は初年度というこ

ともあって大赤字でした。そのように病児保育には問題点があるのも事実です。

当施設の昨年6月からの利用状況です。2022年6月から開設して、6月は3人の預かりがありました。翌月は5件と増えて行くと思っていましたが、ここでコロナウイルスの第8波の影響があり、当施設ではコロナは預かれませんので、ガクンと利用者が減ってしまいました。月に預かりがたった1人という時もありました。コロナが明けて少し利用者が増えてきましたが、ただなかなか利用者が増えない状況が続いています。結局、2022年度全体で27件お預かりです。今年4月からは、いろいろな取り組みをして7月までで22件と前年度を大きく上回って来ており、今後利用が増えていくのではと期待していまも細々と続けています。

ただ全体として自分が想定していたよりも預かりの人数が非常に少なく



て、人件費だけでかなり切羽詰まってしまっている状況が続いています。

なぜ、こんなに釧路で病児保育の利用がないのか。預かりが全然なかった頃は「ここには必要がないのではないか」と悩んだ時もありました。いろいろ自分なりに理由を考察してみるのですが、やっぱり周知が足りない、スクラム開設をそもそも知らないのかなど、思って周知活動も一生懸命やってきたつもりです。感染症流行の状況も当然影響します。病気のおさんがいなければ当然利用はゼロですから、感染の状況については市と協力をしてサーベイランスで把握するようにしています。

また釧路では次の状況が多いのかと思いますが、ご両親と同居、もしくは近隣に実家があるような方が多いということ。遠方でも厚岸や別海から車で2～3時間の距離をなにも苦になさらずにご両親が駆けつけて来ます。千葉県出身の自分としては、あまり考えられないことですが、このようなことがよくあり、キャンセルにつながっています。

企業の体質変化もあると思います。ウチの病院もそうですけれども「子どもが熱を出しました。休ませてください」という職員を「ダメ」なんて絶対に言えません。そのような職員には休みをあげざるを得なくなっている。という休職が取りやすい環境に変わってきているということ。あとは在宅勤務が増えてきて、お子さんを見ながら仕事ができる環境も整ってきていると思います。

釧路労災病院の様子を見てみると、やっぱりこの休職を取りやすい環境が大きな理由になっていると思います。釧路労災病院の場合は、医師は59名しか

おらず圧倒的に看護師と検査技師の数が多く、この方々はみんなほとんどが女性です。労災病院の広報誌を見ても表紙を飾っているのは女性であり、女性の職場という印象を強く持っています。

では、実際に子どもが急に発熱をした場合は当然、病院・クリニックの受診をしなければならず、保育所では病児の預かりができないことから、保護者が子どもを見なければならず、それが職員の休職につながっている状況があります。そうしますと当然、人手不足で残った人間は業務負担が増えます。それが離職率の増加につながっていくという悪循環は自分がこの病院に来てから続いています。これはウチだけではなく、日赤さんも市立さんもそのような話は伺っていますので、病院としてはここをどうにかしないといけない実態があります。

今年から自分がこっそり外来看護師の実態調査を行っていて、まだ4月・5月分のデータしかお示しできませんが、対象は釧路労災病院で働いている外来看護師71名です。1名だけ男性がいますけれども残り全員は30代～50代の女性看護師です。半数以上が子育て世代でお子さんを実際に育てながら働いています。そのような方々の4月・5月はどのような状況かを見てみると、勤務予定者が1日当たり規定では71名いなければいけないところを46～56名くらいしか働いていません。規定人員の65%～80%くらい。これには産休に入っている人もいますし、子どもが熱を出してずっと休んでいる方もいます。そもそもこれくらいしか実際に働いていないのが実情な上に、当日に急な休みをもらう方が1日に1名～7名、多い時には7名も休んでしまいます。2カ月で合計すると約115名が当日急に休んでいることがわかりました。

なぜこんなに休んでしまうのだろう、なぜ急に欠勤をしてしまうのかということをもとめた表です。職員本人の体調不良や親族の不幸はやむを得ないと思います。「子どもの体調不調」で休まれている方が30%くらい占めていました。いまいる看護師さんになんとか働いてもらおうと思ったら手を付けるのはこのことということで、病児保育という病気のお子さんを預かれる環境が整備されればもう少し働き手が確保できるのではないかと、いろいろ画策をしているわけです。

保護者の負担をもっと軽減できないかと考えていま

す。例えば、スクラムの利用料が4,000円～5,000円なので、釧路労災病院の「福利厚生費」として、この利用料を何とかできないかと掛け合っていますが、元々は厚生労働省の病院ですし、頭が固くてなかなか進んでないのが現実です。なので苦しいですけども利用料金を減額して利用を増やして保護者さんの役に立てればと考えています。次に、病院・クリニックを受診して診断書を発行してもらって当施設を利用してもらうこの流れの中で、病院の診断書代は自由診療なのでそのクリニックによって全然違います。1,000円の所もあれば5,700円というメチャクチャな値段を取る所もあります。

ウチを立ち上げる時にk-Biz（釧路市ビジネスサポートセンター）の澄川さんに相談をしていたこともあって、この度、スクラムの病児保育のサポーター企業さんを募集して、その協賛金で保護者が負担する診断書代をキャッシュバックできれば少しは子育て世代の役に立てるのではないかと考えています。いま、5社ぐらい名乗りを挙げてくれている素晴らしい企業さんがいて、なんとか実現できればと思っています。



あとは、このようなポスターで告知をしっかりと行こうと、各役場や子育て支援センター、各認定こども園・託児所に配布して掲示をしてもらっています。0歳児検診、1歳児検診など検診の所でもこのポスターを配って周知につなげています。子育てイベントにも参加して普及をしたり、メディアにも取り上げてもらったり、このように病児保育を釧路の地域に広めて行こうと考えています。

釧路管内で初の病児保育施設ですので、今は少しでも利用しやすいようにして地域の子育て世代とその子どもたちのために根付くような施設にできれば強く思っています。自分は経営などはまだぜんぜんわかりません。そのために少しでも皆さまにご協力をいただければと思って今回の機会をつくっていただきました。

以上になります。ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 邵 龍珍君 遅くなりましたが後藤会長、佐藤幹事、理事の皆様 一年間よろしくお祈りします。
- 得地 哉君 宇宙ロケットアップサイドプロジェクトについて北海道新聞全道版・地方版に続き、釧路新聞・NHK・STVでも取り上げて頂きました。
- 米本 富夫君 「なゆたの会」で優勝することが出来ました。2回目です。ありがとうございます。
- 岩田 信一君 野球大会に多数の参加、ありがとうございます。

今年度累計 62,000円